

【履修系統図】共立女子大学 看護学部 看護学科

人材養成目的	看護学部の人材養成目的は、本学の建学の精神および共立女子大学の人材養成目的に基づき「幅広い教養を基盤とした豊かな人間性を養い、看護専門職として必要とされる知識・技術・態度に基づいた看護実践能力を修得するとともに、将来にわたり看護の向上に資するための研鑽能力を養い、人々の健康の保持増進に寄与することにより、自ら自己の将来を切り開き、自律的に社会に参画・貢献しうる女性を育成する。」ことである。
ディプロマポリシー	看護学科は、本学科の課程を修め、124単位以上の単位修得と必修等の条件を満たしたうえで、次のような社会に広く貢献できる自立した女性としての必要な知識、技能並びに資質を備えた人物に学位を授与する。 (1)看護の対象を包括的に捉えるための幅広く深い教養と専門的知識を身に付けている。(知識・理解) (2)科学的根拠に基づき、看護を計画的かつ安全に実践するための理論的知識を身に付けている。(知識・理解) (3)看護の対象となる人々と適切な援助的コミュニケーションをとることができる。(技能) (4)個人や家族の健康レベルや生活、地域の特性と健康課題を査定し、より質の高い看護を実践できる能力を身に付けている。(技能) (5)ケア対象のあらゆる発達段階、健康状態、心理状態に対応して援助できる能力を身に付けている。(技能) (6)保健医療福祉チームと関係を密にし、連携・協働して社会的ニーズや状況に対応した看護を提供できる能力を身に付けている。(技能) (7)客観的思考を活用した判断と意思決定によって、根拠に基づいた看護を提供することができる。(思考・判断・表現) (8)最新の知識・技術を用いて、必要とされる看護を判断し、計画的に実践することができる。(思考・判断・表現) (9)看護の対象となる人々の健康レベルを成長発達に応じて査定し、身体状態との関係を説明することができる。(思考・判断・表現) (10)人間の尊厳と権利を擁護する能力、高い倫理観を基盤としたヒューマンケア態度を有している。(関心・意欲・態度) (11)看護専門職としての役割を果たし、社会に貢献していくために、将来にわたり自己研鑽を継続し、看護実践のための専門性を発展させる意欲を有している。(関心・意欲・態度)
カリキュラムポリシー	ケア対象者について理解し、その対象に応じた健康課題を適切に査定し、健康生活を支えるために必要な基礎から応用までの援助の理論と実践力、及び看護実践のための専門性を発展させる能力を育成することを目的とし、教育課程を編成する。

科目区分	教育目標	1年次	2年次	3年次	4年次	
専 門 基 礎 科 目	人体の構造と機能 環境と相互作用しながら変化していく人体の構造・機能を学ぶ	解剖生理学Ⅰ 生化学 発達心理学 微生物学	解剖生理学Ⅱ 病理学			
	疾病と治療 人体の機能や器官ごとに、発症する病気の病因・病態や症状の特徴、必要な検査、及び治療について学ぶ		病態と治療Ⅰ (臓器疾患) 病態と治療Ⅳ (精神科系疾患)	病態と治療Ⅱ (全身システム疾患) 病態と治療Ⅲ (老年科疾患) 病態と治療Ⅳ (産婦人科疾患) 病態と治療Ⅳ (小児科疾患)		
	看護の基盤 看護の本質を理解し、看護実践に必要な基礎的理論を学ぶ	看護学入門 看護学概論 人間関係論			看護倫理	
	社会と医療 保健・医療・福祉の制度や理念、人々の健康を保持増進するための地域社会の役割及び社会環境の変化に伴い必要とされる知識・能力について学ぶ	保健福祉医療論 公衆衛生学	多職種連携論	看護統計		
専 門 基 幹 科 目	健康生活を支えるための看護技術の原理と基礎を学ぶ	基礎看護技術論 日常生活技術論Ⅰ 基礎看護学実習Ⅰ	ヘルスアセスメント論 日常生活技術論Ⅱ 医療支援技術論Ⅰ	看護過程展開論 医療支援技術論Ⅱ		
			成人看護学概論 老年看護学概論	成人看護学援助論Ⅰ 成人看護学援助論Ⅱ 成人看護学援助演習Ⅰ 成人看護学援助演習Ⅱ 老年看護学援助論 老年看護学援助演習	成人看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅲ	
	専門的職業人として必要とされる看護学分野の専門的知識と技術、態度の修得 看護対象者のライフサイクルに応じ、その健康を援助するための看護活動の実践の基礎を学ぶ		小児看護学概論 母性看護学概論 精神看護学概論 在宅看護概論 地域看護学概論	小児看護学援助論 母性看護学援助論 精神看護学援助論 在宅看護援助論 地域看護学援助論	小児看護学援助演習 母性看護学援助演習 精神看護学援助演習 在宅看護援助演習 地域看護学援助演習	小児看護学実習 母性看護学実習 精神看護学実習 在宅看護実習Ⅰ 在宅看護実習Ⅱ
					総合技術演習(OSCE)Ⅰ	
専門展開科目	卒業後看護専門職としての役割を果たし、社会に貢献していくために、各専門領域で学んだ知識・技術・態度を統合し、看護職としての専門性を発展させ、看護実践能力を開発する能力を育成する		看護英語Ⅰ 看護英語Ⅱ	国際看護論 医療安全論 障害者コミュニケーション リハビリテーション看護論 カウンセリング 家族看護論 災害看護論 がん看護論 感染看護論 エンドオブライフケア論	看護学総合演習 看護学総合実習 認知症看護論 クリティカルケア論 ケアマネジメント論 看護教育学 看護専門職論 看護情報論	
看護研究	将来にわたり自己研鑽を継続し、看護実践のための専門性を発展させるために、自発的な能力開発を継続するための能力や基礎的な研究能力を育成する			看護研究法Ⅰ	看護研究法Ⅱ	

必修科目
 選択必修科目
 選択科目